



Rotary International
ROTARY SHARES
ロータリーは分かちあいの心
2007～2008 年度
国際ロータリーテーマ:ウィルフリッド J.ウィルキンソン会長



東京赤坂ロータリークラブ

No.975 / 2007.11.9

例会 / 毎週金曜日12:30
例会場 / ANAインターコンチネンタルホテル東京
Tel 03-3505-1111
事務局 / 〒107-0052東京都港区赤坂2-19-8
赤坂2丁目アネックス3F
Tel 03-3505-5976
Fax 03-3505-6004
akasaka-rotary@w8.dion.ne.jp
http://www.k5.dion.ne.jp/~akasaka

Weekly Report

東京赤坂ロータリークラブ週報

「広げよう友の輪、分かちあおう喜びを！」

2007～2008年度・東京赤坂ロータリークラブテーマ / 小原健会長

●本日の例会 / 2007年11月9日 第998回例会

◎卓話:『査察あれこれ』

税理士 (元麹町税務署長・東京国税局査察部次長)

番重 賢嘉 君

(紹介者 土屋 東一 君)

— ●先週報告 / 2007年11月2日 第997回例会 —

◎卓話:

『FACE --- 異文化コミュニケーションへの招待』



米山奨学生

ケンパー マティアス 君

◎来賓挨拶:

米山学友委員会委員長 吉井栄氏 (東京神宮 RC)



幹事報告:

本年度の夜間例会のご案内をボックスへ配布いたしました。ご確認ください。

東京マラソンのボランティアを募集しております。ご希望の方はご連絡のほどお願い申し上げます。

指名委員会報告: (吉田用親委員長)

クラブ細則第4条第1節によると12月第1週の例会日に年次総会を開催して、次年度理事・役員を選挙を行うことになっております。また、クラブ細則第1条第1節には「役員を選挙すべき会合の1ヶ月前の例会において、その議長たる役員は会員に対して会長、副会長、幹事、会計及び4名の理事を指名することを求めなければならない・・・」と規定されています。そして、クラブ細則第1条第2節には「第1条第1節の定めるところに従

い、役員、及び理事の指名のための機関として指名委員会を設ける。指名委員会は会長により指名された委員により構成される」と規定されております。これを受けて、会長より本年度指名委員会には、西澤正雄さん、入沢頼二さん、荒木昭文さん、小原健さん、村山公士さん、委員長として吉田用親が勤めました。指名委員会は、次年度(2008～2009年度)理事・役員候補者を次の通り指名致します。

〔役員〕 会長ノミニー (2009～2010年度会長) / 四分一勝、副会長/吉岡琢磨、幹事/清水實、会計/飯島規之

〔理事〕 庄司泰典、尾上寛、西澤民夫、橋本年男

(敬称略)

国際奉仕委員会: (尾上委員長)

本日皆様のボックスへ、次年度受け入れを予定している留学生のホストファミリーについてのアンケート用紙をお配りいたしましたので、よろしくお願い申し上げます。

出席報告:

会員54名 / 出席30名・欠席24名 (出席規定免除者5名)

ゲスト / ケンパーマティアス (卓話者)、米山学友委員会委員長 吉井栄 (東京神宮 RC)、米山増進委員会委員 伊賀可次 (東京日本橋 RC)、米山増進委員 森弘樹 (東京世田谷南 RC)、平田和夫 (田村昭二君ゲスト) 計5名 (敬称略)

ビジター / 米倉健司 (豊島東 RC) 計1名 (敬称略)



11月2日

9件 23,000円 / 本年度累計443,400円

多額のご寄付をありがとうございました。(敬称略)

吉井栄 (米山学友委員会委員長) / 東京神宮ロータリークラブのメンバー。多大なニコニコ。小原健 / 11月に入ると何となく気ぜわしくなります。皆様風邪などひかれなように。尾上寛 / ケンパーマティアスさん、本日の卓話よろしくお願いします。二宮利泰 / 魔女の一擲もそろそろお引取下さるようです。ところで昨日初めての曾孫誕生、痛みも吹っ飛びます。入沢頼二 / 忘年家族会に久しぶりの出番があるというので赤坂ロータリーカルテットの練習にも熱が入ってきました。橋本年男 / 先日南会津の木賊に紅葉の写真をとりに行きました。お酒を飲みすぎて私の顔も紅葉しました。飯島規之 / 今年も残り2ヶ月ですね。西澤さんご苦労さまです。田村昭二 / 西澤さんニコニコご苦労様です。西澤民夫 / 皆様ご協力ありがとうございました。

私の専門は異文化コミュニケーション学ですが、異文化コミュニケーションとは何か、具体的にお話ししたいと思います。

私は2000年の夏に高校を卒業しましたが、すぐに徴兵制に当たって、ドイツの陸軍に入隊しました。ドイツでは1年弱の兵役が義務付けられておりますが、将来の目標も当時はありませんでしたので、自ら国際派遣部隊に入隊し、2年ぐらゐ兵士の仕事をしていました。2001年の春から、私が所属した部隊が復興活動のためコソボに派遣されました。

半年の間、私はコソボでアルバニア人とセルビア人の殺し合いを目の当たりにし、数多くの戦争犯罪を生で体験しました。戦闘中では深く考える余裕がありませんでしたが、同じ地で暮らしている人々が何故殺しあうのか、理解に苦しみました。宗教や民族が違う、だから戦争が起こりますと学校では教わりました。しかし、もっと根本的な原因があるはずだと現地で強く感じました。

私はその時まで、紛争を民族や宗教の対立として意識していました。しかし、よく考えると、戦うのは民族でもなければ、宗教でもありません。対立するのは、あくまでも個人の人間同士です。ですから、当事者の人間と人間のコミュニケーションに争いを乗り越えられるカギがあると実感しました。その発見から、私は異文化コミュニケーションを研究しようと決意しました。

民間人に戻ってから大学でコミュニケーションを学ぼうとしたのですが、やはり、母国で異文化コミュニケーションを研究しても、物足りなさが残ります。そのため、長期留学を決意しました。中学時代から、日本の伝統武芸である居合の稽古に励みましてので、日本に対する憧れと好奇心をきっかけに、日本で異文化コミュニケーションを学ぼうと思い切って決心しました。

1年半日本語学院で日本語を学んでから、2004年に桜美林大学の言語コミュニケーション学科に入学しました。日本人、そして韓国人や中国人との共同生活を経て、異文化コミュニケーションを毎日実践してまいりました。

しかし、日本語が話せるようになって、日本の伝統、芸術や日常に没頭しても、日本人のコミュニケーションは相変わらず失敗や誤解の連続でした。もう無理だと挫折し始めた時期に、大事な事に気がつきました。日本の伝統、歌舞伎、能、お寺、神道などなど・・・それは日本の文化ではないと悟りました。それは全て、日本の文化から生まれた産物であって、日本の文化そのものではないと目から鱗が落ちました。つまり、歌舞伎や神道、それは日本人が共有する価値観から生まれたものであり、その価値観、文化の深層にあるものこそが円滑な異文化コミュニケーションにつながると感じました。

また、毎日の生活や日本人とのコミュニケーション、ましてや他国の留学生とのコミュニケーションを考えると、日本の深層文化を明らかにして、果たして役に立つかと疑問に思いました。

私達は同じ言語、そして同じ記号を使ってコミュニケーションを取ります。ですが、コミュニケーションのルールは異なります。皆様は恐らく10進法を使って計算をするでしょう。しかし、私は12進法を使います。つまり、時刻の数え方をします。1時+1時は当然2時になります。同様に8時+5時は1時になります。

下らない結論かも知れませんが、所詮、人と人、文化と文化そして国家と国家のコミュニケーションや人間関係を円滑にするためには、お互いの理解が大事ですが、それより絶対に必要なのは、「違い」の認識だとわかりました。

人間は基本的に自分と違うものを嫌う傾向があります。それは仕方がありません。自分と違うものは危険かもしれませんし、「違い」と付き合うと、必然的に不安やストレスが伴います。



このような問題を解決するために、相手のシステムを知ることが大切です。残念ながら、人間は複雑で、全てのシステムを知ること、そして理解することは不可能です。同じ日本人なのに、男性文化と女性文化の溝も深いようです。

相手を理解する努力を怠っても良いと宣言するつもりは全くありませんが、自分自身の「違い」との対処法、「違い」の認識の仕方について改めて考えていただきたいと思います。

結局、「違い」とどのように付き合うのか、それは個人によって異なります。

私の異文化体験、異文化コミュニケーションの研究から出来上がった対処法を皆様に紹介したいと思います。

題しまして、FACEです。

FACEとは英語の頭文字の組み合わせです。

- F → Find → 「違い」を見つけること(具体的・客観的)
- A → Accept → 寛容すること(理解できなくても、受け止める)
- C → Connect → 共通点を見つけ出すこと、自分と相手を「繋ぐ」
- E → Enjoy → 「違い」を楽しむこと

この場で一番強調したいのは、「違い」ということですが、それはあくまでも本能的な反応であり、「違い」そのものに対する我々の偏った解釈に過ぎません。

「違い」を楽しむことは、異文化理解を深めるために絶対的に必要だと感じています。外国人とのコミュニケーションを取るためだけではなく、家庭内や社内コミュニケーションを円滑にするために、「違い」を楽しむことは一番の近道です。性別、年齢、職業や趣味が異なれば、そこで異文化が発生するので、全体的に人間関係が「違い」を楽しむことによって、より豊かになると確信しています。

和や協調性を大事にする日本人にとって、「違い」を楽しむことは中々変わった考え方も知れませんが、楽しむことが難しいと感じなければ「違い」は恐れるべきものではないと是非ご理解いただきたい。

世界平和が個々人のコミュニケーションから始まるのです。

ひとり一人の人間が相手との違いを寛容し、好奇心を持つことが平和の基礎となると願っています。(編集 飯島)

【お知らせ】

2007年11月1日、
会員の二宮利泰さんに
曾孫がご誕生されました。
男性家族で初の
御嬢様の誕生です。



11月例会卓話、行事予定

(スペースの関係で、今後の例会情報のみお知らせいたします)

16日(金) 第999回例会

ブッフエスタイルのため卓話はございません。

※例会場は、ANAインターコンチネンタルホテル東京 37F 「アリエス」となります。

23日(金) 祝日のため休会(勤労感謝の日)

30日(金) 第1000回例会

卓話予定『DSG(地区補助金)とMG(マッチンググラント)について』

地区ロータリー財団補助金委員会委員長

富澤為一氏(東京品川RC)

※お蔭様で、1000回目の例会を迎えました。

記念の例会でありますので、是非足をお運びください。